

## 委員の皆さまから事前にいただいたご質問、ご意見等

南丹市子どもの未来応援プラン～子どもの貧困対策推進計画～について  
今後もしっかりと考えていくためにも、サポート制度や調査の数値以外に、どういった成果があったのかなど、リアルな情報、声が聞きたいです。

- 南丹市の予算における子ども・子育て関連の総額と、全体の比率(直接、子ども・子育てに関わるもの)を教えてください。
- 南丹市の職員(正職員)に占める子ども・子育て関連分野の人数と比率を教えてください。

少子化が進み、集落に小さい子どもさんがほとんどいない現状で、おられても近くにお友達がいないからと1歳から保育所に入所されます。入所するために仕事をおられる方もいると聞きます。子どもが小さい間、家庭で子育てしたいと思っているお母さんが安心して子育てできる環境にはもう戻らないのでしょうか。家庭で子育てしている人にも何らかの補助があるといいなと思います。

「のびのびなたん 子育てにやさしいまち」に向けて、乳幼児から児童、生徒、思春期の内面について考えることも大切です。不登校や登校しぶりが増えています。たくましくしなやかな心を育てていくために、乳幼児期から思春期までの各時期で子ども自身が自分の力で乗り越えていかなければいけない課題があります。そしてその発達のと時期に応じた親の関わりがとても大切です。自立できない、自己表現できない、自己肯定感が低い等、全てに関わってきます。そういう心の育ちを親が知り、適切に関わっていくことの大切さを知らせていくことも、子育てに悩む親にとっては必要なことではないかと思います。

ここ近年の、子どもを取り巻く環境や支援の事業内容を知りたいです。南丹市の広報を、就学前の子どもたちのことを意識しながら見るようになりました。地域の一員として子どもたちの見守りを続けていきたい思いから、近所で通学や帰宅時間にすれ違う子どもたちに「気をつけて行ってらっしゃい」「お帰りなさい」と声掛けをしています。ただ、コロナ禍でマスク越しでお互い顔がわからないので躊躇うこともあります。これからも状況が変化していく子ども・子育て環境を、子育て経験者の一市民として拝聴させていただきたいです。

子育て中のお母さんたちが望んでおられるのは、お子さんを一時的に預かってもらえる場所や、悩みを相談できる場所、ほっとできる居場所だと思います。私たちのサークルもお母さんたちがほっとできる居場所に変えていきたいと思っています。

障害者相談員さんの「なんでも相談」について。各町単位で毎月相談日があり、相談員さんがおられるようですが、誰も来られないことも多く、相談員の井戸端会議のような時間になってしまっていることもあると聞きました。ヤングケアラーの問題など、各障害者の方の問題に合わせてどうすれば垣根を越えて話を聞くことができるのか考えていかなければならないと思います。